



JKがマンガで説明「マイサポいこま」

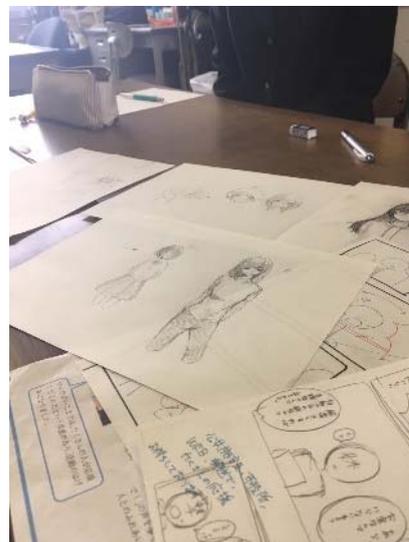
奈良北高等学校漫画研究部が、マイサポいこま紹介冊子に寄稿

市民が応援したい市民活動団体を市に届出し、その届出数によって支援金額が決まるというユニークな支援金制度「マイサポいこま」。社会貢献活動の推進を目的とした制度ですが、その制度をPRするため、奈良県立奈良北高等学校漫画研究部の2,3年生が、制度の趣旨に賛同し、一目で制度がわかり興味を持ってくれるようにとマンガを「広報いこまち」6月15日号と同時配布するマイサポいこま紹介冊子に寄稿して下さることになりました。

■ わかりにくい制度？

マイサポいこまは、この制度に申請、登録された市民活動団体自らが、マイサポ制度と自分の団体をPRし、市民からの投票で、市からの支援金額が決定するという仕組みです。生駒市の市民税の1%を18歳以上の人口で割った金額(826円 平成28年度実績)に届出数を乗じたものが支援金額となります。

しかし、制度自体が複雑でわかりにくいいため、市民からは「自分が支払わないといけないのか」「他のボランティア団体に入っているから届出できない」といったような誤解が寄せられており、「制度の趣旨を理解することが難しい」と敬遠されがちでした。そのため、マイサポいこま登録団体がPR活動をする際についても苦戦を強いてきたという一面もありました。



■ 女子高生がマンガでわかりやすく説明

市民活動推進センターららポートでは、イラストを多用して説明した文書を配布していましたが、文字が多く、わかりにくいものでした。そんな時マイサポいこま登録団体から「マンガなら分かりやすいのでは・・・」という提案があり、生駒市内の県立奈良北高等学校漫画研究部に依頼したところ「地域のためになるのなら」とマンガを描いていただくこととなりました。現在作成中です。



■ 若い世代にこそ、この制度を知らせたい。

マイサポいこまは18歳以上の生駒市民ならだれでも届出できる制度ですが、高齢者の関心が高く、10代、20代の届出率は大変低い状況です。このマンガをきっかけにして、幅広い世代から支持され、より活発な市民活動の推進を目指します。

■ 奈良県立奈良北高等学校漫画研究部 受賞歴

H22年 第19回まんが甲子園(全国高等学校漫画選手権大会)、帯屋町賞

H25年 第22回同大会、やなせたかし賞